

2017年度 キャリタス就活 学生モニター調査結果 (2016年2月発行)

第3回調査

2月1日時点の就職意識調査

いよいよ来月に就職活動本番を控え、緊張感が増す就職戦線。2017年卒学生者の最新動向を知るべく、キャリアス就活・学生モニターを対象に、就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。前年同期調査や先月調査との比較、さらに今回はインターンシップ参加状況やUターン就職（地元就職）にも着目して分析を行った。

1. 就活解禁1カ月前の不安

- 「内定をもらえるか」79.3%、「希望する就職先に就職できるか」73.5%
- 男子に比べ女子で全体的にポイントが高く、不安の大きさが表れている

2. 就職活動準備に関して

- 「自己分析」76.5%、「業界研究・企業研究」76.4%、「学内ガイダンスに参加」75.6%の順
- 「就職準備イベントに参加」が過半数（53.8%）。前年同期より7.5ポイント増加

3. 現時点の志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」29.4%。1月調査より2.4ポイント増
- 志望業界1位「銀行」、2位「水産・食品」、3位「医薬品・医療関連・化粧品」。

4. エントリーを決めている企業

- 「エントリーしようと思っている企業がある」8割強（89.4%）
- 決めている社数は平均13.8社。先月調査（12.5社）より1.3社増加

5. 2月1日時点での内定状況

- 「選考中の企業がある」22.6%。前年同期調査（18.0%）よりも4.6ポイント高い。
- 「内定を得ている」2.4%。先月調査（1.1%）よりも1.3ポイント増加

6. インターンシップの応募・参加状況

- インターンシップ参加者は全体の78.9%。前年同期（73.7%）より5.2ポイント増加
- 「1日以内」のプログラム参加者が6割強（65.3%）に対し、「5日間以上」は41.8%
- 「1日以内」への参加は「1月」（47.1%）が最多。「5日間以上」は「8月」（46.2%）が最多

7. Uターン就職（地元就職）の希望状況

- 地元外進学者のうち、Uターン就職希望者は3割強（30.9%）。前年（29.1%）より微増
- 地元進学者・地元外進学者とも、地元就職したい理由のトップは「出身地・地元が好き」

調査概要

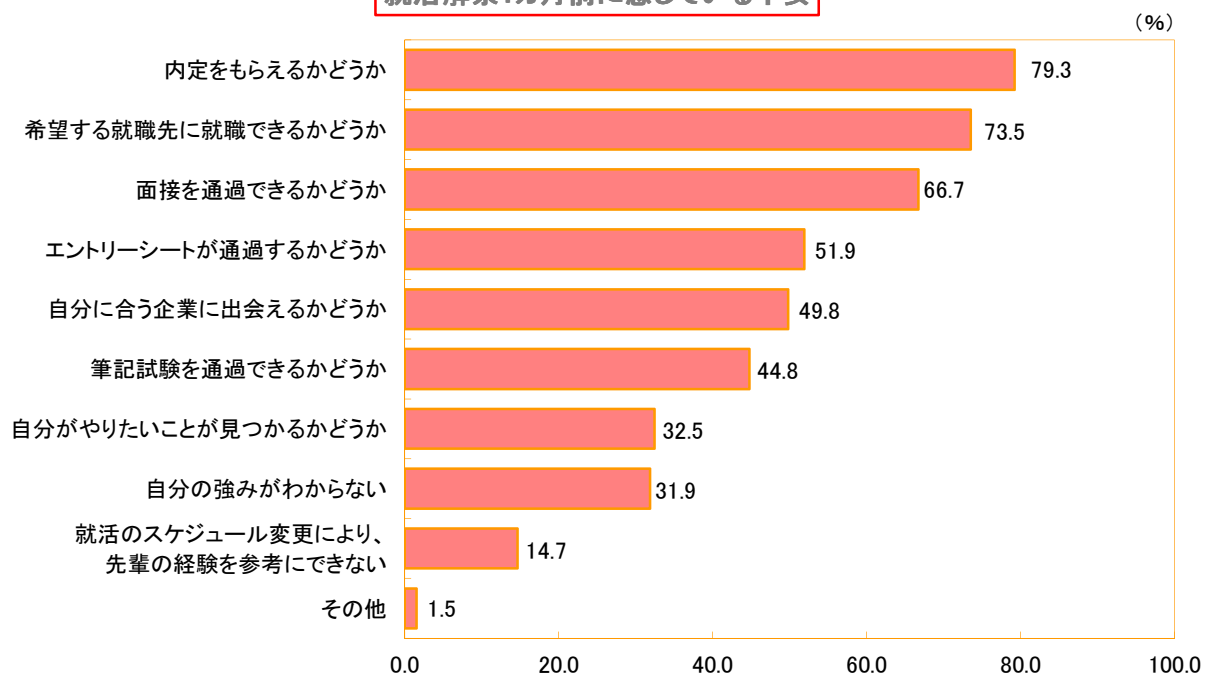
調査対象：2017年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
 回答者数：1,497人（文系男子463人、文系女子497人、理系男子340人、理系女子197人）
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2016年2月1日～8日
 サンプルング：キャリアス就活2017学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

1. 就活解禁 1 カ月前の不安

3月の就職活動解禁を目前に、どんな不安を感じているかを尋ねた。あてはまるものをいくつでも選んでもらったところ、最も多かったのは「内定をもらえるかどうか」で、8割近くが選んだ(79.3%)。次いで「希望する就職先に就職できるかどうか」(73.5%)、「面接を通過できるかどうか」(66.7%)と続く。これを男女別に見ると、男子に比べ女子で全体的にポイントが高く、就職活動への不安の大きさがうかがえる。とりわけ「エントリーシートが通過するかどうか」において差が目立ち、男子は4割程度であるのに対し、女子は文理とも6割を超えている(文系女子60.0%、理系女子61.9%)。一般にエントリーシートは選考の入り口に位置づけられることから、女子において序盤のハードルの高さを意識する学生が多いことがわかる。

就活解禁1カ月前に感じている不安



	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定をもらえるかどうか	79.3	77.3	83.1	73.6	83.8
希望する就職先に就職できるかどうか	73.5	72.7	72.8	77.2	71.1
面接を通過できるかどうか	66.7	62.7	72.0	61.9	71.1
エントリーシートが通過するかどうか	51.9	44.8	60.0	43.8	61.9
自分に合う企業に出会えるかどうか	49.8	40.8	56.1	46.5	60.4
筆記試験を通過できるかどうか	44.8	41.9	51.9	35.1	49.7
自分がやりたいことが見つかるかどうか	32.5	27.3	38.8	29.7	33.0
自分の強みがわからない	31.9	26.6	36.8	25.5	42.1
就活のスケジュール変更により、先輩の経験を参考にできない	14.7	12.4	15.5	14.1	18.8
その他	1.5	1.1	2.2	0.3	3.0

■就職活動への不安に関して

- 3月からどのようなことがどの時期にあるのかが、さっぱりわからない。自分が大変志望していたとしても、エントリーシートやテストで面接の前に落とされてしまうかもしれない、という不安がある。 <文系女子>
- インターンの選考を通過できないことが多いので、本選考が少し不安。 <文系男子>
- 理系院生なので、研究活動(学会、研究の遂行、ゼミの管理)と就職活動の両立が気がかり。また、地方在住で資金的に不安がある。 <理系女子>
- 就職活動直前期になり、内定を得ることができるのか、自分の希望する仕事ができるのか考えてしまう。今までの自分の人生を振り返ってみると、面接で話せる内容のなさに焦っている。 <理系男子>

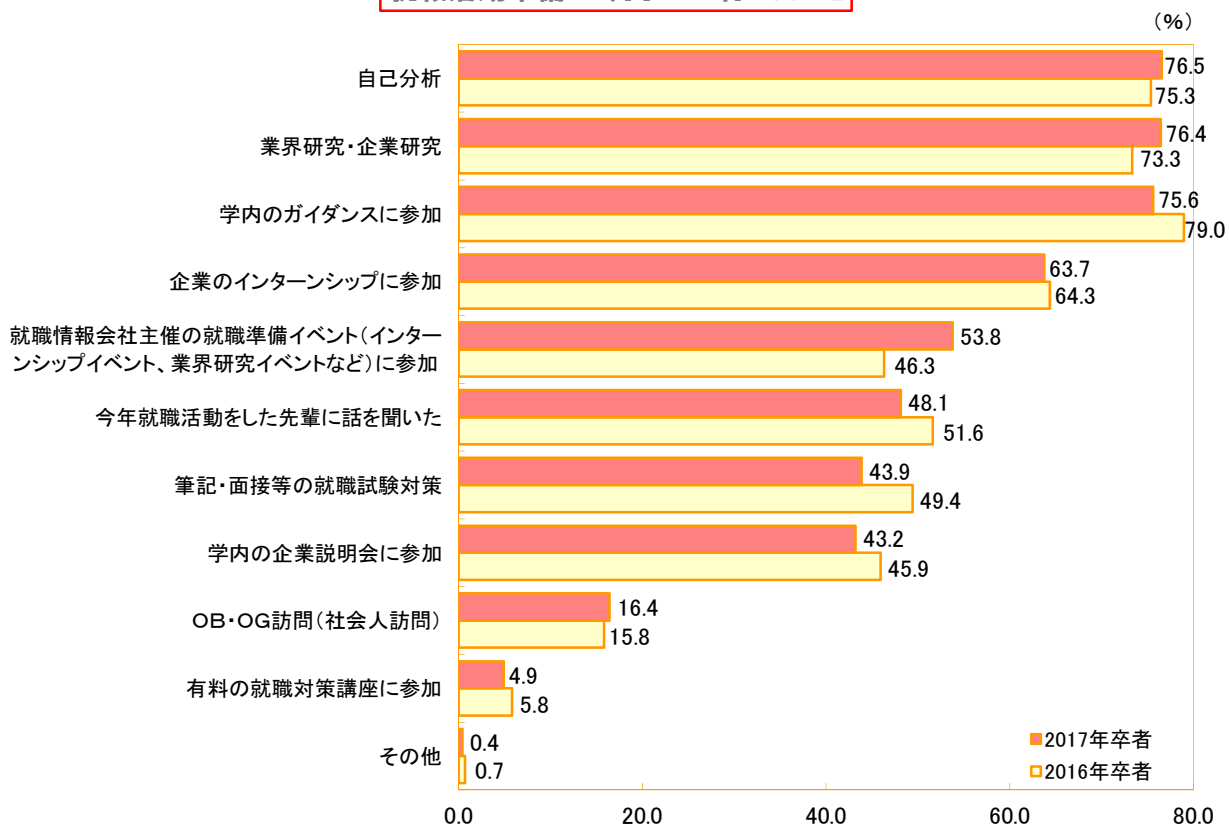
2. 就職活動準備に関して

2月1日時点で「就職活動の準備を始めた」と回答した学生は全体の99.1%で、回答者のほぼ全員が何らかの準備を始めていることがわかった。

準備として行った内容で最も多いのは「自己分析」(76.5%)で、これに「業界研究・企業研究」(76.4%)、「学内のガイダンスに参加」(75.6%)が僅差で続く。前年同期調査と比較すると、ポイントが大きく増えたのが「就職情報会社主催の就職準備イベントに参加」で、46.3%から53.8%へと7.5ポイント増加しているのが目立つ。こうした準備イベントでは、インターンシップの情報や業界研究の一助となる材料を得ることができるが、今年は選考開始時期が8月から6月へと2カ月早まることもあり、事前準備に余念のない学生が増えているようだ。

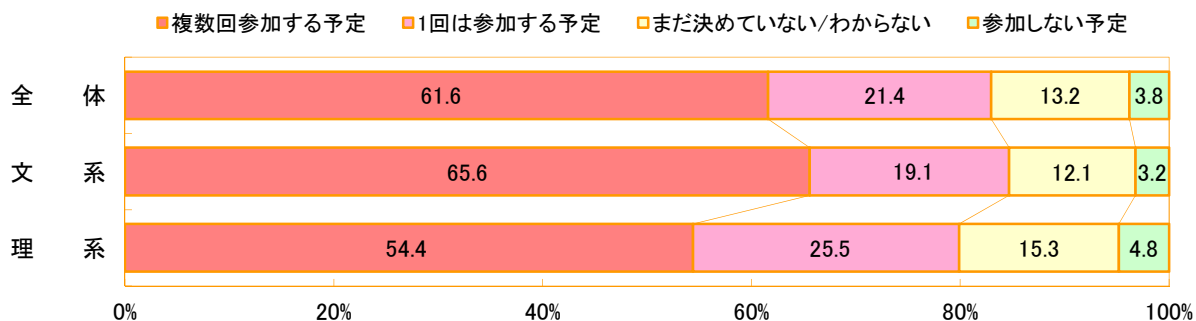
また、3月の採用広報解禁後に開催される「就職イベント」(合同企業説明会)についても参加意向を尋ねたところ、全体の6割強(61.6%)が「複数回参加する予定」と回答した。研究で多忙な理系においても過半数(54.4%)に上る。

就職活動準備で2月までに行ったこと



※「2016年卒者」は、2015年2月調査

3月以降に開催される就職イベントへの参加予定



3. 現時点の志望業界

2月1日時点で、志望業界が「明確に決まっている」という学生は約3割(29.4%)。「なんとなく決まっている」(56.0%)とあわせて8割強(85.4%)が、志望業界が決まっていると回答した。選考解禁が2カ月前倒しされるとあって、前年同時期(83.8%)よりもやや早いペースで志望業界を決めていることがわかる。

現時点での志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらったところ、「銀行」が24.5%で最も多く、次いで、「水産・食品」20.4%、「医薬品・医療関連・化粧品」18.5%と続く。上位業界の顔ぶれは1月調査と変動は見られない。前年同期調査とも同順位であり、就職活動序盤における不動の3業界とも言える。文理男女別に見ると、文系は男女とも「銀行」が首位で、理系は男子が「素材・化学」、女子は「医薬品・医療関連・化粧品」が最も多かった。

志望業界の決定状況

	全体	(1月調査)	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	29.4	27.0	26.9	32.4	20.7	36.5	32.0
なんとなく決まっている	56.0	55.5	56.9	52.7	61.2	52.4	56.9
決まっていない	14.6	17.4	16.2	14.9	18.1	11.2	11.2

志望業界 (上位20業界)

全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子		
1	銀行 ①	24.5	銀行	32.5	銀行	33.9	素材・化学	27.5	医薬品・医療関連・化粧品	46.3
2	水産・食品 ②	20.4	商社(総合)	21.3	マスコミ	24.1	電子・電機	25.8	水産・食品	39.4
3	医薬品・医療関連・化粧品 ③	18.5	運輸・倉庫	21.1	商社(総合)	21.4	エネルギー	23.2	素材・化学	32.6
4	素材・化学 ⑨	17.1	調査・コンサルタント	18.0	保険	20.6	医薬品・医療関連・化粧品	22.5	官公庁・団体	17.7
5	商社(総合) ⑥	15.9	保険	17.0	商社(専門)	17.7	自動車・輸送用機器	20.5	情報・インターネットサービス	12.0
6	マスコミ ④	15.0	水産・食品	16.8	水産・食品	17.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	19.5	建設・住宅・不動産	12.0
7	運輸・倉庫 ⑧	14.9	建設・住宅・不動産	16.0	ホテル・旅行	16.7	水産・食品	18.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	10.9
8	保険	13.9	商社(専門)	16.0	運輸・倉庫	16.2	情報・インターネットサービス	18.2	精密機器・医療用機器	10.3
9	電子・電機 ⑩	13.2	マスコミ	14.5	医薬品・医療関連・化粧品	14.7	精密機器・医療用機器	14.9	調査・コンサルタント	10.3
10	官公庁・団体 ⑤	12.8	自動車・輸送用機器	12.9	建設・住宅・不動産	12.3	機械・プラントエンジニアリング	14.9	マスコミ	10.3
11	建設・住宅・不動産	12.6	官公庁・団体	12.4	官公庁・団体	10.8	通信関連	13.9	印刷・パッケージ	10.3
12	調査・コンサルタント ⑦	12.4	電子・電機	11.2	信用金庫・労働金庫・信用組合	10.6	官公庁・団体	13.2	銀行	9.1
13	情報・インターネットサービス	12.2	エネルギー	10.9	情報・インターネットサービス	9.6	調査・コンサルタント	11.3	電子・電機	8.0
14	エネルギー	12.1	素材・化学	10.7	素材・化学	9.1	運輸・倉庫	10.9	農業・林業・鉱業	7.4
15	自動車・輸送用機器	12.1	証券・投信・投資顧問	10.7	教育	8.8	銀行	10.3	エネルギー	6.9
16	商社(専門)	11.7	情報・インターネットサービス	10.4	調査・コンサルタント	8.6	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	9.9	機械・プラントエンジニアリング	6.3
17	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	10.4	信用金庫・労働金庫・信用組合	9.1	電子・電機	8.1	建設・住宅・不動産	8.9	教育	5.7
18	ホテル・旅行	8.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	7.9	自動車・輸送用機器	7.9	商社(総合)	7.9	自動車・輸送用機器	5.1
19	精密機器・医療用機器	7.9	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.9	OA機器・家具・スポーツ・玩具他	7.6	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.3	運輸・倉庫	5.1
20	機械・プラントエンジニアリング	7.8	医薬品・医療関連・化粧品	7.1	その他サービス	7.4	保険	6.6	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	5.1
									その他サービス	5.1

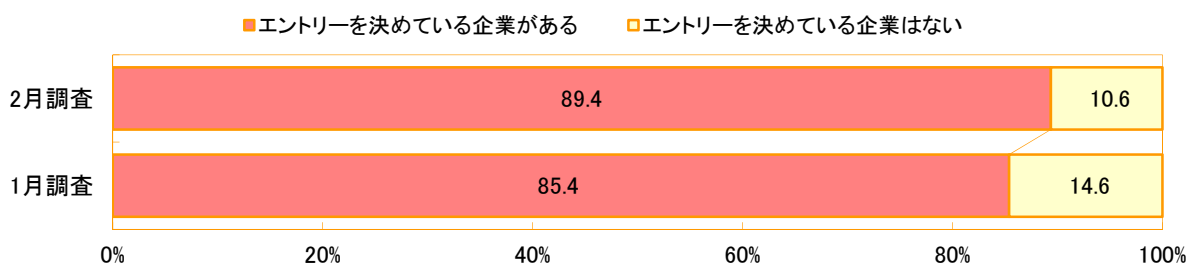
※○の中の数字は2016年1月同調査の全体順位10位以内

4. エントリーを決めている企業

就職活動解禁 (3 月 1 日) を 1 カ月後に控え、「エントリーをしようと思っている企業がある」という学生は全体の 89.4% に上った。先月 (1 月) 調査では 85.4% であり、この 1 カ月で 4 ポイント増加した。

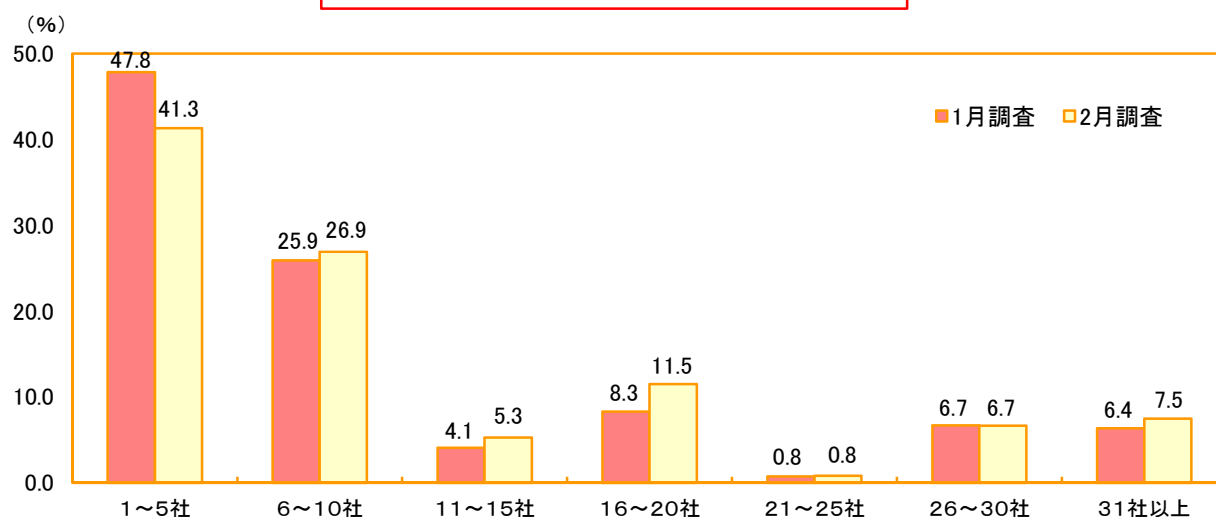
具体的にエントリーを決めている企業の数は、平均で 13.8 社。先月 (12.5 社) からの増え幅は 1.3 社。1 月は大学の後期試験と重なる時期だが、試験準備と並行し、企業研究を少しずつ進めている様子が見える。

エントリーを決めている企業の有無



	全体	(1月調査)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーを決めている企業がある	89.4%	85.4%	90.1%	89.3%	87.4%	91.4%
エントリーを決めている企業はない	10.6%	14.6%	9.9%	10.7%	12.6%	8.6%
エントリーを決めている企業の社数(平均)	13.8社	12.5社	16.9社	13.1社	12.2社	11.1社

エントリーを決めている企業の社数/内訳分布

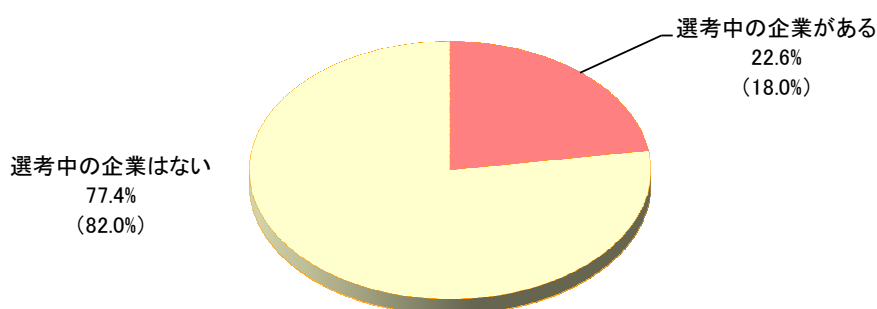


5. 2月1日時点の内定状況

インターンシップの選考を除く、本選考の受験状況を尋ねた。筆記試験や面接などの「選考中の企業がある」という学生は 22.6%で、1月調査 (14.9%) から 7.7 ポイント増え、選考ベースにのっている学生が 2 割を超えた。前年同期調査では 18.0%だったので、前年よりややペースが早い。選考中の企業数は平均して 1.7 社。選考中として挙げられた社名を見ると、外資系コンサルティングファームや、IT 系企業、いわゆるメガベンチャー等が大半を占める。

内定状況についても尋ねたところ、「内定を得ている」との回答が 2.4%で、1月調査 (1.1%) から 1.3 ポイント増。割合は小さいものの、内定を手にする学生が少しずつ増えている。

2月1日現在の選考中の企業有無

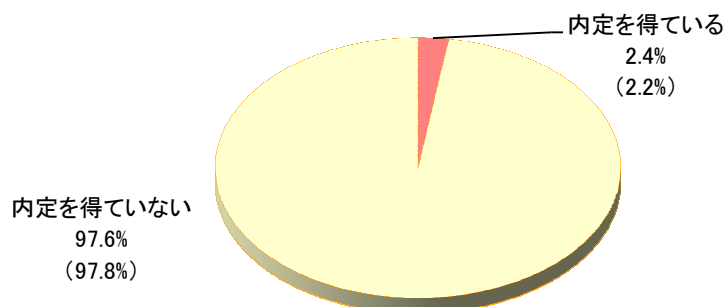


※()内は2015年の同調査での2月現在の数値

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
選考中の企業がある	22.6%	27.4%	23.7%	17.4%	17.3%
選考中の企業はない	77.4%	72.6%	76.3%	82.6%	82.7%
選考企業社数(平均)	1.7社	1.9社	1.5社	1.7社	1.8社

2月1日現在の内定の状況

*「内定」には、内々定を含む



※()内は2015年の同調査での2月現在の数値

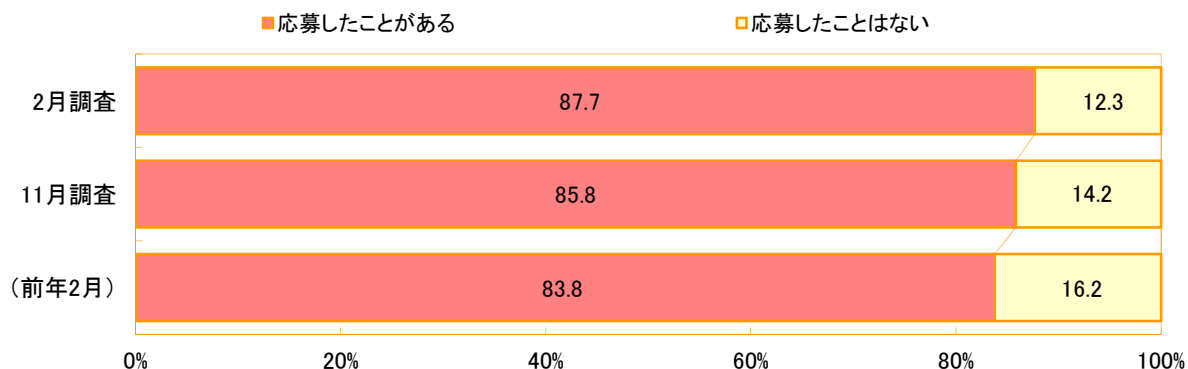
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得ている	2.4%	3.5%	2.0%	1.8%	2.0%
内定を得ていない	97.6%	96.5%	98.0%	98.2%	98.0%
内定社数(平均)	1.2社	1.1社	1.2社	1.0社	1.8社

6. インターンシップの応募・参加状況

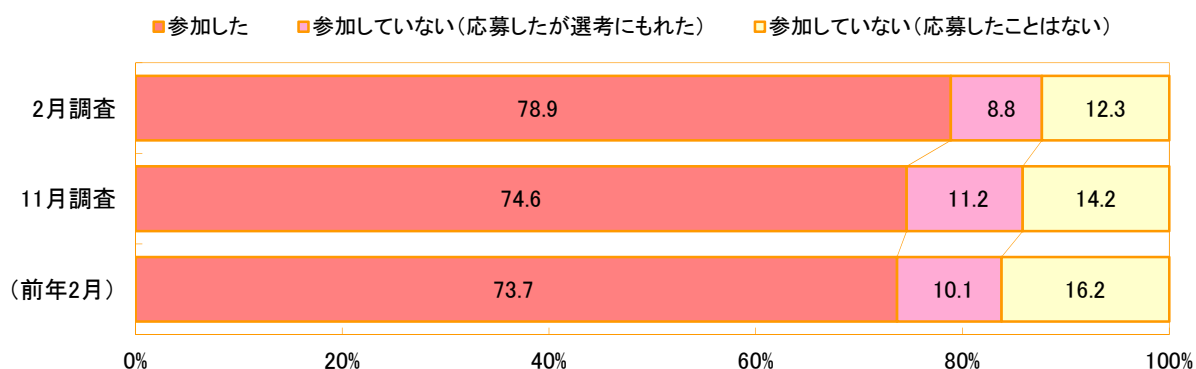
2月現在、インターンシップに「応募した」と回答したのは全体の8割強(87.7%)。また、実際にインターンシップに「参加した」学生は7割強(78.9%)であった。応募・参加の両方とも、前年同期調査よりもポイントが上昇しており、度重なる採用スケジュールの変更で、学生のインターンシップへの関心はますます高まっている様子が見えてくる。

参加期間(プログラム日数)ごとに参加状況を見ると、「1日以内」のプログラムへの参加が最も多く6割を超えている(65.3%)。平均社数も3.0社と多いことから、いわゆる1Dayが主流であることがわかる。「5日間以上のプログラム」への参加は4割強(41.8%)で、「2~4日間」は約3割(29.6%)。平均社数はともに1.7社であった。長期のインターンシップを通じて、企業研究や業界研究をしっかりと深めておきたいが、実際はハードルが高く容易に参加できない学生も少なくないとみられる。

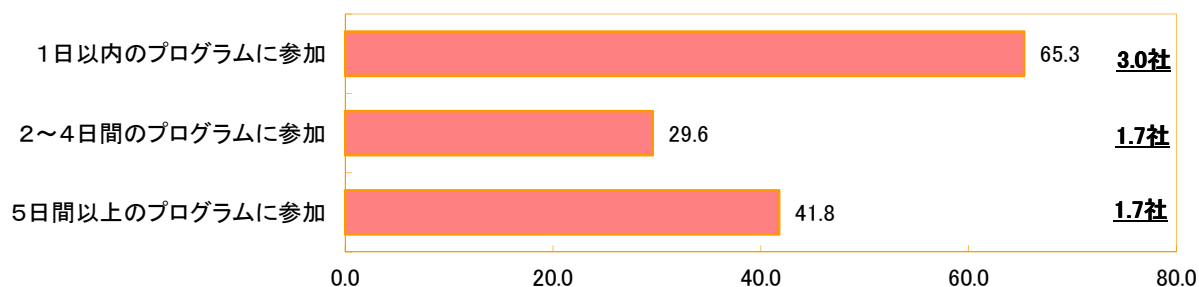
インターンシップ応募の有無



インターンシップ参加経験



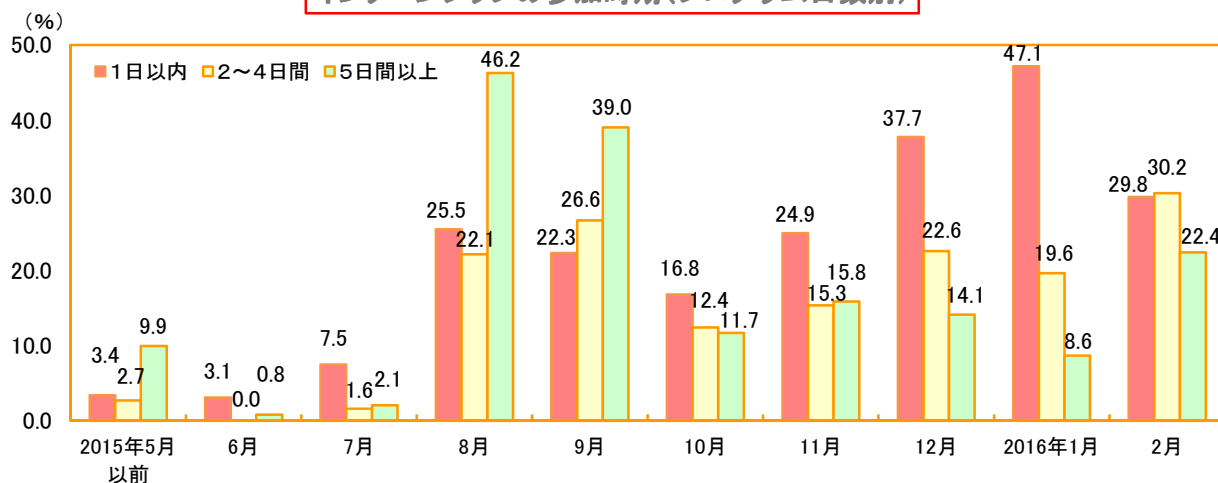
プログラム日数別の参加割合と平均参加社数



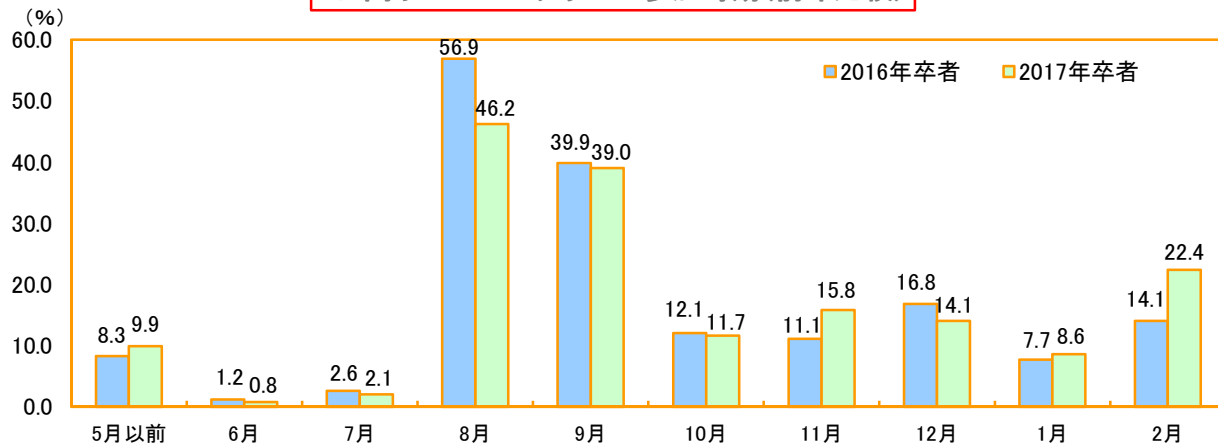
続いて、インターンシップの参加時期について確認したい。「1 日以内」のプログラムへの参加時期は、「1 月」(47.1%)、「12 月」(37.7%) の順に多く、冬場がメインであることがわかる。これに対し、「5 日間以上」のプログラムで最も高いのは「8 月」(46.2%)、次いで「9 月」(39.0%) で、8 月と 9 月に際立って高いポイントを示している。学生が参加しやすい夏休み中の開催が多いことがわかる。

ただし、「5 日間以上」のプログラムへの参加時期を前年調査と比較してみると、「8 月」は 56.9% から 46.2% へと 10.7 ポイント減少しており、8 月の集中度が緩和されている。昨年 8 月と言えば 2016 年卒者の選考解禁時期であり、5 日間以上のインターンシップを実施できなかった企業が多かったと見られる。その分、後期試験後の「2 月」が 14.1% から 22.4% へと 8.3 ポイント増え、春休み前半もインターンシップの格好の実施時期と捉えられていることが推測できる。

インターンシップの参加時期(プログラム日数別)



5日間以上のプログラムの参加時期(前年比較)



■インターンシップに関して

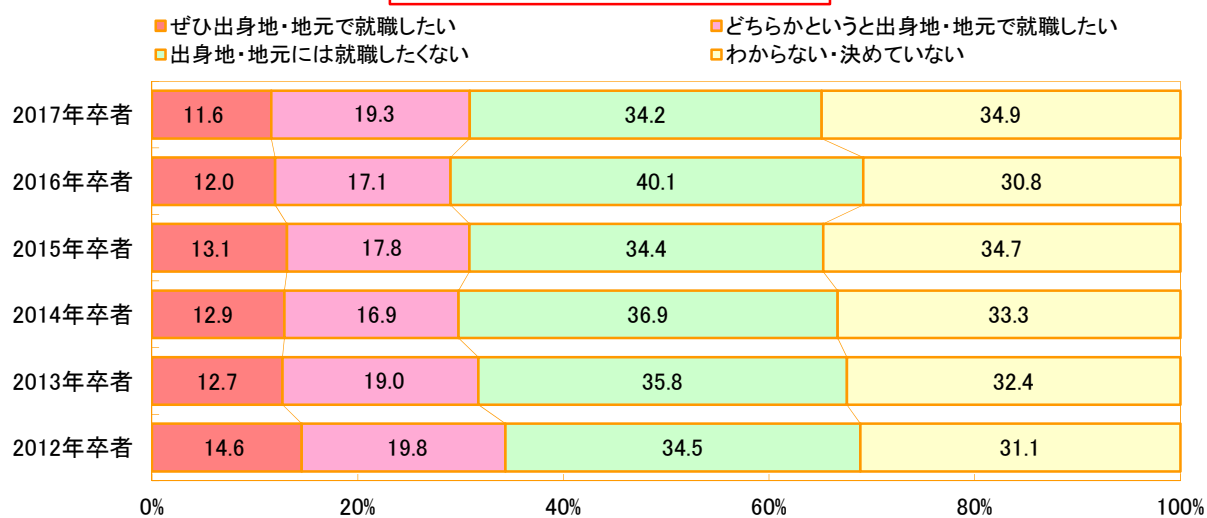
- 就活の時期が変わってしまい、インターンと会社説明会の差別化ができなくなっていると思う。 <文系男子>
- 2月開催のインターンシップ選考は夏よりも厳しいと感じた。企業研究や自己分析を本選考と同レベルくらいまでしておかなければ受からない。 <文系女子>
- インターンシップからの採用の実態など、知らなければ終わってしまうようなことが多い。就職活動が情報戦になりすぎてしまっているのが不安だ。乗り遅れないためにもアンテナを高く持っていたい。 <理系男子>
- この時期になると、大体ですが、志望業界が絞られてくるようになりました。しかし、どの企業がいいかわからず、インターンシップにひたすら行っている感じです。 <文系女子>

7. Uターン就職(地元就職)の希望状況

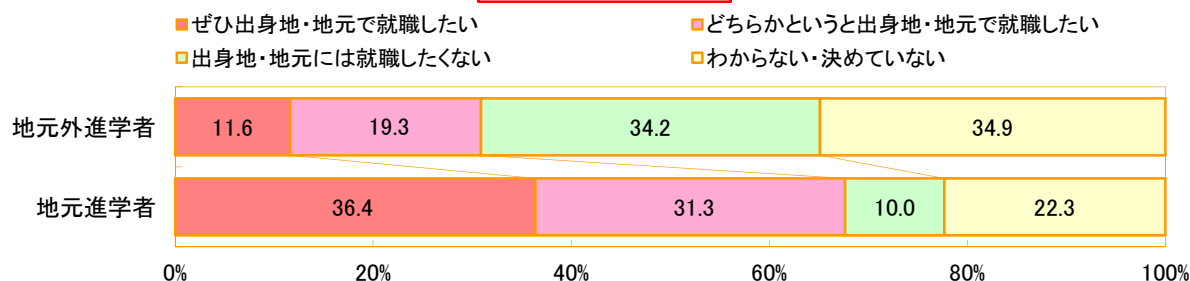
出身地・地元を離れて進学している学生(=地元外進学者)を対象に、Uターン就職の希望状況を尋ねた。「ぜひ出身地・地元で就職したい」11.6%と「どちらかという出身地・地元で就職したい」19.3%を合計すると30.9%で、Uターン就職希望者は3割強。前年調査(29.1%)をやや上回る。一方、「出身地・地元には就職したくない」は34.2%で前年調査(40.1%)より5.9ポイント減った。

一方、地元の大学に進学した学生(地元進学者)では7割近く(67.7%)がこのまま地元で就職したいと回答しており、将来の就職を見据えて地元の大学に進学する学生が多いことがわかる。

Uターン就職意向(地元外進学者)



地元就職希望状況



【参考データ】

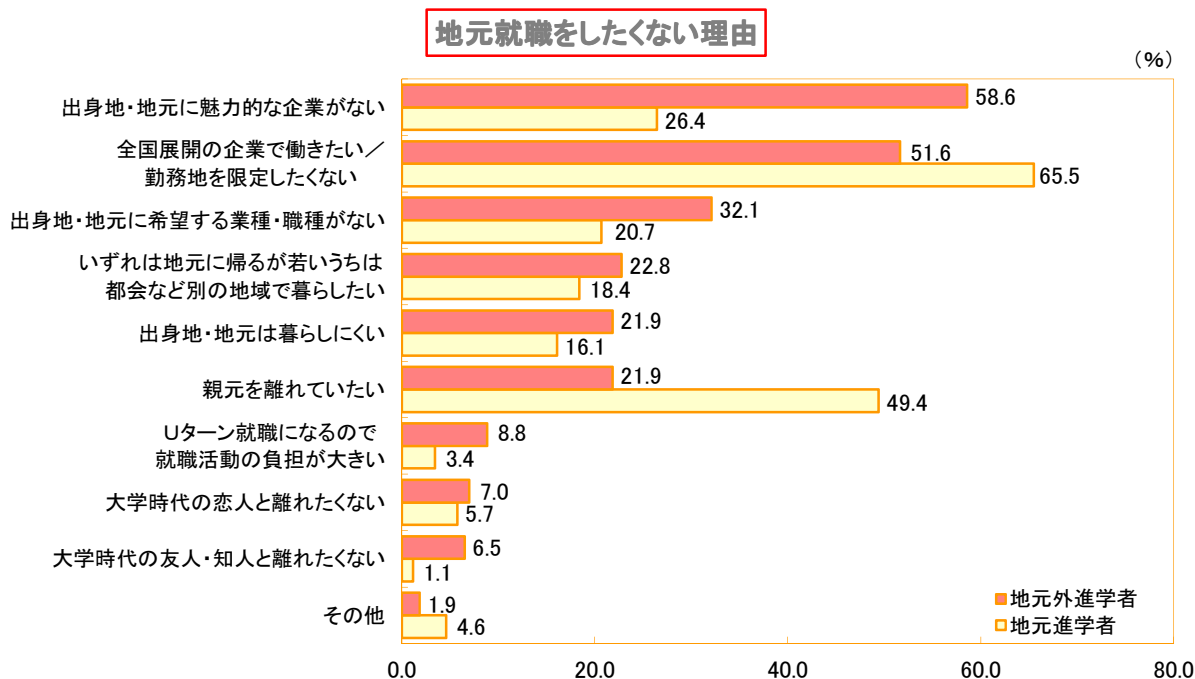
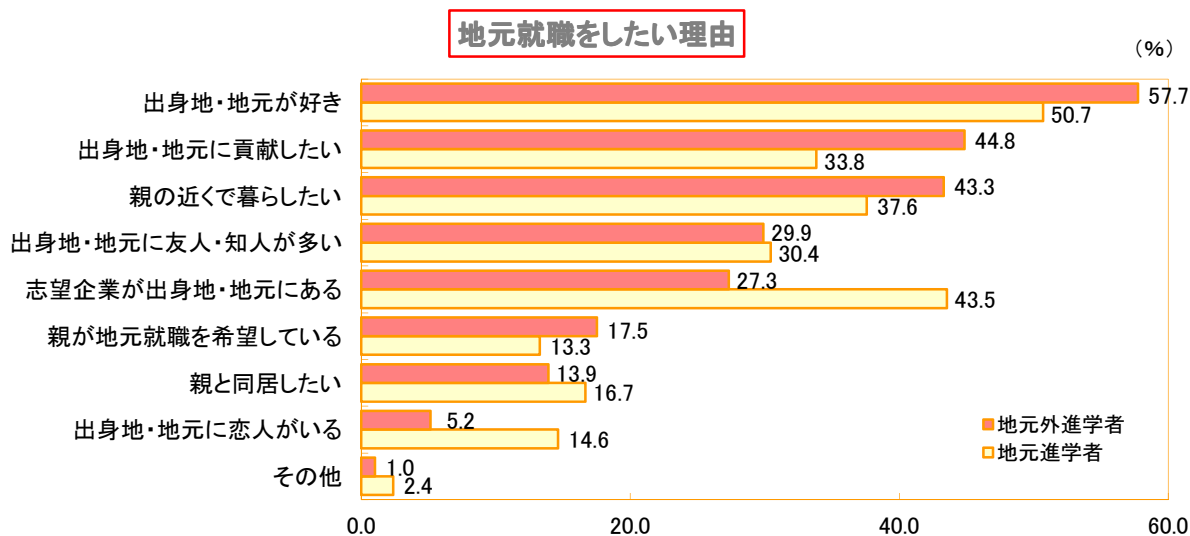
	全体	北海道出身	東北出身	関東出身	中部出身	近畿出身	中国・四国出身	九州・沖縄出身
出身地・地元を離れて進学	42.0	44.6	79.8	27.1	55.2	35.7	65.3	48.8
出身地・地元の大学に進学	58.0	55.4	20.2	72.9	44.8	64.3	34.7	51.2

【地元外進学者】	全体	北海道出身	東北出身	関東出身	中部出身	近畿出身	中国・四国出身	九州・沖縄出身
ぜひ出身地・地元で就職したい	11.6	13.8	10.7	13.5	12.9	13.7	0.0	12.9
どちらかという出身地・地元で就職したい	19.3	10.3	13.3	18.7	15.1	33.3	18.2	19.4
出身地・地元には就職したくない	34.2	41.4	49.3	25.8	40.3	18.6	47.0	32.3
わからない・決めていない	34.9	34.5	26.7	41.9	31.7	34.3	34.8	35.5

【地元進学者】	全体	北海道出身	東北出身	関東出身	中部出身	近畿出身	中国・四国出身	九州・沖縄出身
ぜひ出身地・地元で就職したい	36.4	25.0	31.6	44.1	29.2	27.2	34.3	33.8
どちらかという出身地・地元で就職したい	31.3	30.6	15.8	28.5	37.2	38.0	25.7	27.7
出身地・地元には就職したくない	10.0	22.2	31.6	4.1	17.7	8.7	17.1	21.5
わからない・決めていない	22.3	22.2	21.1	23.3	15.9	26.1	22.9	16.9

地元外進学者と地元進学者別に、地元就職したい理由を比較した。両者とも「出身地・地元が好き」が最も多く、地元外進学者は 57.7%、地元進学者は 50.7% という割合。両者の差が最も大きいのは「志望企業が出身地・地元にある」。地元進学者は 4 割を超え 2 番目に多いのに対し (43.5%)、地元外進学者では 27.3% にとどまる (16.2 ポイント差)。このことから、地元進学者は卒業後の就職先まで見据えて地元の大学に進学する傾向が読み取れる。

一方、地元就職したくない理由では、「親元を離れていたい」において最も大きな差が見られ (27.5 ポイント差)、地元外進学者と地元進学者では、親への認識が異なる傾向があると言えそうだ。地元進学者の中には就職を機に親元を離れて生活したいと考えている層が一定数存在することがうかがえる。



■ Uターン就職などについて

○ 地元で就職を考えているが、大学が地元から離れているため、あまり頻繁に行き来することが難しく、どのように就職活動を進めていけばいいかわからない。 <文系女子>

○ 地方の有力企業が少ない。 <文系男子>